

## 被災地派遣 職員レポート

# 東日本大震災被災地へ市職員を派遣しています

■問い合わせ先／人事課 ☎88・2510

東日本大震災の被災地支援として、震災発生直後から今年3月までに、消防援助隊をはじめ、給水隊、保健師など計70人の市職員を延べ616日間に渡り被災地へ派遣してきました。また、現在、宮城県の東松島市(1年間)と宮城郡七ヶ浜町(6か月間)へ、1人ずつ市職員を派遣しています。今回は東松島市役所へ派遣中の市職員が、被災地の今と携わっている業務内容を報告します。



東松島市復興政策課へ派遣  
谷口 壘 (瀬戸市人事課付)

## 東松島市について

人口は約4万人の農業・水産業のまちで、日本三景の松島町と宮城県の第2の都市である石巻市と隣接しています。東日本大震災では、市内で1,094人(10月末時点)の方が亡くなり、まちは壊滅的な状況になりました。海岸近くの地区には、今も多くの被災家屋が残っています。

### 〈被災した直後〉



野蒜地区の野蒜小学校の1階まで津波が押し寄せ、体育館も冠水しました。

### 〈現在〉



現在、小学校としては使われておらず、消防や野蒜市民センター、野蒜郵便局の仮設地として使われています。



東松島市の観光スポット「大高森」

## さまざまな復興事業に携わっています

### ■「環境未来都市」の実現に係る事業に携わっています

東松島市が目指す、超高齢化対応や防災、低炭素・省エネルギーを大きな柱とした「環境未来都市」づくりを軸に、まちの復興に取り組んでいます。

※東松島市は「環境未来都市」に選定(全国11か所)されています。

### ■復興の柱の一つ「防災集団移転促進事業」に携わっています

10月に個別面談を行い、移転先をほぼ決定しました。今後は、移転先の画地の決定や地区コミュニティを形成していくこととなります。一方、被災地でそのまま暮らすことを決断された方もいますので、並行して対応しています。



10月に復興の中核となる「東松島みらいとし機構」の設立記念フォーラムが開催され、俳優の伊勢谷友介さんやC.W.ニコルさんが特別顧問として出席し、「環境未来都市」の可能性などについて意見交換をしました。

## 日頃のコミュニケーションの積み重ねが、災害などの非常時に力を発揮すると実感

東松島市は、震災前から地区ごとのコミュニティが形成されていたため、震災時に沿岸地域の方を別の地域の方が受け入れたりするなど、市民同士が互いに何日も助け合って過ごしました。日頃のコミュニケーションの積み重ねが、災害などの非常時にその力を発揮すると実感しています。

仙台まで繋がるJR仙石線は3年後に復旧する予定で、普通の生活を取り戻すまでには5年、10年とかかります。その月日の長さながく然とするばかりですが、東松島市民の揺るがないまちの復興への想いや、市職員が市民目線で前向きに仕事に取り組む姿に心を打たれながら、日々、仕事に取り組んでいます。